
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時55分）

◇ 高柳孝博君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、高柳孝博君。

（5番 高柳孝博君 登壇）

○5番（高柳孝博君） 通告に従いまして壇上から質問をいたします。

私は、3.11のあの震災のあと、まず安全第一としまして、安全・安心の町に向けて防災について取り組んでまいりました。26年には地域防災計画が見直され、避難所運営計画も見直しができました。ずっと申し上げてきました業務継続計画・BCPも作られてきました。そして、昨年9月にはアクションプログラム2014というのが作られてきました。防災については、アクションプログラムにどの程度乗っかってくるか、それをどう実施されていくか、注視していきたいと思えます。

一方で、私はもう一つまちおこしをずっと訴えてきたわけでありまして。私は地方創生、まちおこしの進め方について質問します。

少子高齢化、人口減少対策は、人口構成と出生率からみて、かなり前から叫ばれていたことです。地方再生、地方の活性化は歴代の政権では竹下内閣が「ふるさと創生事業」で1億円の交付、小渕内閣が「地域振興券」による地域経済の刺激、第1次安倍内閣が「頑張る地方応援プログラム」で地方交付税の重点配分を行ったわけでありまして。しかし、どの施策も根本的な解決にならず、相変わらず地方が疲へいしていき、人口減少が進んでいくという状況が進んでいるわけでありまして。

第2次安倍内閣は、地域創生法を制定しまして、担当大臣も設けました。1月には、まち・ひと・しごと創生長期ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略を発表しました。

少子高齢化、人口減少の進む松崎町にとって、創生のチャンスと捉えて取り組まなければなりません。地方創生総合戦略政策パッケージでは、定性的、定量的に目標を示し、その進め方も示しています。

しかし、地方の資源、課題は様々であり、求められているのは地方も5カ年の戦略をデータに基づき、地域ごとの特性と地域課題の抽出から産・官・学・金、いわゆる金融とが連携

した総合戦略推進組織の整備によりPDCAを回していくとしています。政策5原則の自立性、将来性、地域性、直進性、結果重視はまさに地方の独自の力で、地方の人が実践していくことが求められております。

次世代へ持続可能な町をつくっていくのは、今を生きる我われの責任であります。真剣に取り組まなければならないのであります。頂に登ろうとしなければ・・・、山に登ろうとする場合ですね。頂上には登れません。目指す頂上を明確にして、困難を越えて、希望のもてる世界が広がることを期待します。

そこで、1. 町の創生のビジョンと総合戦略を作る必要があるのでは。

2. 町の創生の進め方を問います。

3. 地域マーケティングの取り組みが必要では。この3点についてお伺いします。

フランスのリヨテ将軍が昔おりましたが、将軍は「庭に檜の木を植えなさい」と庭師に言いました。庭師はそれに答えて、「檜の木を育てるには100年かかります」と言ったわけです。そうしたら、将軍は「それなら午後からやろう」と言ったわけです。長期計画もすぐにかからなければ意味がないわけでありまして。すぐにやるということを期待しまして、檀上からの質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 高柳孝博議員の一般質問にお答えします。

1. 町の創生のビジョンと総合戦略を作る必要があるのでは。①「松崎町の長期ビジョンはいつ作るか」についてです。

藤井議員の質問でも回答させていただきましたが、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国では昨年12月27日に「長期ビジョン」と「総合戦略」を閣議決定しており、平成27年度中に都道府県、市町村において、人口動向や将来人口推計の分析や中長期の将来展望を提示する「地方人口ビジョン」や人口動向や産業実態を踏まえた2015年度から2019年度までの5カ年の政策目標、施策を入れた「地方版総合戦略」を策定することになっています。

国では補正予算において、地域住民生活等緊急支援のための交付金を予算措置し、財政的な支援を行うこととしており、今回その交付金を活用し、町の人口ビジョン、総合戦略を策定することとしており、今回の補正予算に計上させていただいたところでございます。

予算は、繰越明許費で平成27年度での執行になりますが、4月から人口ビジョンや総合戦略策定がスムーズにいくよう、庁内体制を強化するとともに、広く住民や産官学金労などの関係者などを入れた組織体制の準備を進めてまいりたいと考えております。

②「町の戦略の工程と目標値の考え方と作る時期は国の総合戦略の4つの柱を町にどのよう
に適用するか」についてであります。

まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で、人口ビジョン
は重要な基礎として位置づけられていることから、人口ビジョンの策定を先行し、それを踏
まえて町の総合戦略を策定することになりますが、11月頃まで、遅くとも年内には策定でき
るよう進めてまいりたいと考えています。

市町村の総合戦略は、国の総合戦略に加えて、都道府県の総合計画を勘案し策定すること
となっており、国が掲げる4つの基本目標、「地方における安定した雇用を創出する」「地
方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」を踏
まえ、地域の特色や資源を活かし、5カ年の計画期間で実施すべき、住民に身近な施策を幅
広く盛り込みたいと考えております。

なお、施策の工程や数値目標・重要業績評価指標（KPI）につきましては、国のアクシ
ョンプラン（個別施策工程表）に盛り込まれた施策を参考に、町独自の指標等を設定してま
いりたいと思います。

2. 町の創生の進め方を問う。①「地方は一時的な補助金を貰っても衰退している。財源
を継続的に生み出すものでなければ、継続した再生ができない。どう取り組むか」について
でございます。

2015年から2019年度の向こう5カ年間において、国は地方が総合戦略に基づいて事業・施
策を実施する場合、交付金で支援を行うものと認識しておりますが、ご質問のとおり、補助
金・交付金は一時的で、永続的なものではなく、継続的に財源を生む仕組みを考えなければ
再生できないということは、私も同感であります。

まず、住民一人ひとりが地域をつくるのは自らの問題であるという当事者意識を持ってい
くことが必要であり、そのためには町への誇りと愛着を醸成していかなければならないと考
えております。

平成25年度の「日本で最も美しい村」連合加盟も、まさに住民の力でまちづくりを進めよ
うとの考えからであり、そうした中で、「まちづくりやろうじゃ協議会」の活動や議員も所
属の「桑葉ファーム」の活動も、その第一歩であろうかと思えます。

確かに、地方創生に係る交付金は限られた年数であるかもしれませんが、この機会をとら
え、仕事を創生し、将来に渡って継続できる仕組みを関係団体の皆様とともに考えてまいり

ますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

②「成功事例と失敗事例の収集はどうするか。農林水産振興、図書館の使い方、人材育成等」についてでございます。

総合戦略策定にあたっては、自らの地域課題を認識するとともに、他市町村の事例を収集し、課題解決の参考にするということも重要であると認識しております。

平成24年度から町が県とともに進めております「ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合」や平成25年度に加盟いたしました「日本で最も美しい村」連合は、連携を図ることはもとより各地で取り組んできた事例などを学び合い、情報交換ができることもメリットとして、活動を続けているところでございます。

特に「日本で最も美しい村」連合加盟町村は、地域は素晴らしい地域資源を持ち、それらを活かす活動を地域が一体となって取り組んでいることはもちろん、全国においても先進的な取り組みを行っている場所であることから、平成27年度当初予算の「美しい村推進事業費」に地方創生戦略策定調査の特別旅費を予算措置し、全職員を11グループに分け、美しい村加盟町村・地域などの視察研修を通じて情報収集を行い、成功事例、失敗事例も踏まえて総合戦略策定につなげていきたいと考えています。

③「産官学金融の具体的取り組みをどう考えるか。（例）ICT活用のフィールドモニタリングシステム、地産多商トレサビリティ、遠隔診断システム」についてでございます。

まち・ひと・しごと創生を効果的・効率的に推進するためには、住民、団体、企業等の幅広い参加・協力が必要であり、1点目の質問でも回答したとおり、町の総合戦略策定にあたっては、住民はじめ産業界、行政、教育機関、金融機関、労働団体などの意見を伺い、方向性や具体案について、検討することにいたしております。

ICT活用につきましては、2月の議会全員協議会でも説明させていただいたとおり、ICTの利活用による協働のまちづくりを推進するため、NTT西日本と包括連携協定書を締結し、地域の活性化や住民サービスの向上を図る事業を検討することにしております。

また、2月11日に静岡大学と町で地域課題解決支援プロジェクトとして行われた公開シンポジウムでは、地域と大学で何ができるかをテーマに意見交換が行われ、今後地域と学校の連携による取り組みが期待されます。

なお、「日本で最も美しい村」連合加盟の町村や企業との連携した商品開発や地域課題解決の取り組みも始まっており、今後も産官学金労などの多様な主体で地方創生を進めてまいりたいと考えております。

3. 地域マーケティングの取り組みが必要では。①「地域マーケティングのプロセスを活用するか否か」についてです。

議員のご質問のとおり、人口減少、高齢化が進む中で地域経営という視点に立って地域マーケティングを進めていくことは、重要であると考えています。

地域マーケティングには、地域住民を対象として、生活の質を改善し、地域の良さを認識し、自信と誇りをもって住み続けてもらう活動を行う内部に対するマーケティングと地域外住民や企業などを主な顧客とし、「まち」を売り込んでいく外に対するマーケティングがあると言われてしています。

平成25年度が初年度となる第5次総合計画においても、現状と課題の分析や住民の意識、希望調査など行い、計画策定にあたっては、目標指標を設定し、P D C Aのサイクルを回しながら施策、事業を実施しているところであり、今回の総合戦略においても、産官学金労などの多様な主体の意見を取り入れながら地域マーケティングのプロセスを活用し策定することになると考えております。

②「定住化につなげる空き家調査後の活用方法は」についてです。

町では、町内における空き家及び空地の有効活用と定住促進による地域の活性化を図るため、平成25年6月から空き家情報バンク制度を開始し、区長会や回覧、広報、ホームページで物件の登録をお願いしてきたところですが、登録物件のない状態が続いております。

こうした状況を解消すべく、平成12年度に作製した空き家・遊休地調査台帳をもとに、昨年11月末から地域おこし協力隊が町内35地区の現地調査や住民の皆様への聞き取りを行っております。

調査は現在、石部、大沢、池代、明伏、小杉原の5地区が終了し、100軒余の空き家を確認し、登録可能物件も3軒確認いたしております。引き続き、町内全域の調査を行い、少しでも多くの登録物件を確保してまいりたいと考えております。

また、今後策定予定の地方版総合戦略の中で地方移住の推進をするために、支援体制の強化や改修費補助なども検討してまいりたいと考えております。

なお、2月から「日本で最も美しい村」連合加盟の北海道美瑛町、長野県木曾町、富士ゼロックス株式会社などとともに、空き家を活用したシェアハウス・オフィスについて、検討を始めたところで、今回の地方創生関連事業として、補正予算で空き家の再利用の検討や拠点施設の整備を予算措置しているところがございます。

○5番（高柳孝博君） 一問一答方式でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○5番（高柳孝博君） まず1点目の町の創生のビジョンと総合戦略ですけど、11月から今年の末くらいに作られるということなんですが、ここのポイントは、私はK P I だと思いません。指標をしっかり作って、それに基づいてできているかどうかですね。P D C Aを回すといっているわけですね。P D C Aを回すということは、途中で計画して、実行して、評価が入って、そして、改良するというのがP D C Aですので、だったら、何がいいかというのがわからなきゃ評価できないわけですよ。

だから、指標をしっかり作って、その指標どおりにいっているのか・・・。指標というのは、いろいろな指標が作られると思うんですよ。一般にいわれているのは、Q C D S Mってやつです。クオリティ（品質）とコントロール（管理）はどうなっているか。Dはデリバリー（時期）ですね、時期がこれでいいのか。Sというのはセイフティ（安全）ですから、Mというのはモラルですから、それらが本当にいいかどうかというのをみななければいけないわけです。まず1点、K P Iを作っているかどうか。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほど町長の答弁の中でもございましたけれども、今回の補正予算によって先行型ということのなかで、人口ビジョン、戦略策定の予算を盛りさせていただいております。当然人口の推移なんかをみながら、戦略を策定しますけれども、K P Iは置くことにしております。

その結果を国の方にも報告しなければならないという部分がありますので、当然もっていくところがございます。

○5番（高柳孝博君） K P Iは作られるということで、ちょっとほっとしたわけですが、帳票の方はいかがでしょうか。K P Iを管理するには、やはり帳票を作って、ここまでできている・・・、それは結果をみてなければだめなわけですね。結果は改善できないので、プロセスのところではK P Iがないといけないと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 当然5カ年の計画を立てまして、そこで各単年度ごとの、今年はこちらまで、来年はこちらまでというような形の中で目標設定がされてきますので、当然それは確認をさせていただきますし、改善を加えながらやっていくということです。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。高柳君、横文字のときにちょっと説明を加えるような形で質問をしてください。せっかく傍聴の皆さんもいますから、配慮してください。

○5番（高柳孝博君） K P Iは重要課題の指標ですよ。ですから、いま指標を作られると

いうことでした。結果系が・・・、もちろん当然出ていかなければいけない、5カ年で長期ビジョンを作られるわけですから、5カ年が本当にいいかどうか、単年度ごとにみななければいけない。単年度の中でも月ごとにいいかどうかくらいをみなきゃいけないわけですね。もっといくと、たぶん課長会議とか何か庁内会議をやっているんですが、庁内会議の中で本当に動いているのかどうか、そういうことをやっぱりみていかなければいけない。

目指すところは・・・、KPIを作るところは目指すところだと思います。先ほど檀上では頂上を目指さなければたどり着けないと言いました。ふもとを目指していたんではふもとにしか行けません。ふもと以上に登ることはできないわけです。だから、KPIを作るときにはぜひ頂上を目指してもらいたい。その考えはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） はじめからふもとを目指すわけではないので、頂上を目指すわけですが、先ほど申したとおり、総合戦略会議を作るわけですが、それにはやっぱり庁内戦略会とそれともう一つは、計画総合委員会がありますけれども、それと、これはまだ仮の名ですが、美しい村委員会、これは産官学等も入ると思いますけれども、このような3つの組織をうまく利用しながら作り上げていくことになると思います。

○5番（高柳孝博君） 美しい村連合については、ずっと私もまちおこしの要になるだろうと・・・、町長もそうおっしゃられているわけですから、それをやってくると考えていたわけですが、やはり進めるにあたっては、頂上がここだと見せない美しい村連合の方たちも、やろうとする方たちもどこを目指すかというのがわからないわけですね。そこは非常に残念だと思います。美しい村連合というのは、当然評価基準というのがあるわけですから、やることはもう決まっていますよね。だから、そのやることに対して、松崎はどのようなビジョンをもってやるか、この前の質問の中では、ガイドラインを作ってからという話・・・、ガイドラインというのは本来はじめにやるものではないかと私は思うんですけれども、ガイドラインを最初に作って、行動計画を作って、そして成果を出す。それくらい・・・、明確にやっていったらどうかというんですが、そこはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 「日本で最も美しい村」に入りまして、いまガイドラインというお話が出ましたけれども、「日本で最も美しい村」のガイドラインということではなくて、景観におけるガイドラインというようなことでお話したかと思うんですけれども、当然今回の戦略を策定する上で、先ほど来もありますけれども、関係の皆さん全てに入っただいて、町が目指す方向をお示しして、達成する場所なんかもお示しして、協議をした中でやっていきたいと考えておりますので、当然おっしゃられているようなことは考えてまい

ります。

- 5番（高柳孝博君） やっていくということなので、それはそれでいいと思うんですが、総合戦略に対して、もう国は既に目標を出しているわけです。先ほど言いましたKPIも出していますし、それから、関連事業として、27年1月14日には、27年度の予算でこれだけのことをやりますと載せているわけです。各省庁がこれだけの事業をやると出しているわけですね。そうすると、当然交付税もそれに基づいて出てくるというふうに考えるわけですが、国が出したこととのリンク・・・、当然町の中では、その中で採用されるもの、採用されないものがあると思うんですが、そのあたりの考えはいかがでしょうか。
- 企画観光課長（山本 公君） 今回交付金として、先行型ということで3000万円ほど予算がついています。これは、戦略を策定する、当然今後戦略が策定されるであろうということを想定しながら、その事業を先行させてやっていくものですが、それが3000万円付いておりますので、補正の中で、3000万円の事業は実施していく、空き家移住対策ですとか、そういったものを中心に進めていくことになると思います。あと、地域消費喚起型ということでもありますけれども、それは1500万円ほど付いていますけれども、それは、商品券ですとか、観光券ですとか、そういったものに使いなさいというような指示もあるものですから、それはそれで補正の中で対応してくるところでございます。
- 5番（高柳孝博君） 地域消費喚起型というのは、非常にそれは賛成であるわけですが、実際に町に交付金が下りても実際に出ていくのは、都市に出ていくと・・・。その循環とこのをやっぱり絶たないと町はいつまで経っても、いくらお金をもらっても再生ができないというふうに考えますので、そのあたり本当に町に落とすにはどうしたらいいかという仕組みづくりやっつけていかなければいけないと思うんです。そのあたりはいかがですか。
- 企画観光課長（山本 公君） 消費喚起型につきましては、町内で使っていただくということが前提ですので、町内で落とさせていただく、商店街さんを中心にやっていただく、もう一つ、観光客に対してクーポン券みたいなものを出そうかというように考えていますので、それは圏域外の方に松崎に来ていただいて、町内で使っていただくということですので、外へ出るというものではない。町内で消費されていくものだと認識しております。
- 5番（高柳孝博君） あっちの建設の工事の絡みもあるわけですが、先ほども地元の業者を使ってというような話もありました。そういった意味では、全てが外に流れるということではなくて、いま言っているのは、都市・・・、東京一極集中とか、都市へ集中するということを防ごうということをやっているわけですので、ぜひそのあたりも真剣に考えていかなければ

ばならないと思います。

それでは2つ目の町の創生の進め方ですが、地方は補助金をもらっても、今の循環、都市へ流れていく、交付金をもらったお金が設計とか建設のお金で都市に流れていく、そういった循環をやっぱり絶たなければいけないというのが一つありますし、一時的に交付金をもらっても、交付金をもらったときは元気になるわけですけど、そのあとの再生するということにいていないと、一時的に元気になってもまた落ちてしまう。そのところをどうしていくか、これはかなり難しいところですけど、それを達成しない限り本当に地方創生にならないと思います。そのあたりの考えはいかがでしょうか。

- 町長（齋藤文彦君） それにはやっぱり先ほど檀上で答えましたけれども、やっぱり住民一人ひとりが地域をつくる、自らの問題であるという当事者意識を持ってやっていかなければならないと思うわけです。

それで、高柳議員も参加している桑葉とか、いま桜葉の組合が立ち上がってきて、それなりの形が見えてきたのかなと・・・。私は地域で循環させるような形を作っていかなければ、これからはないと思っていますので、このようなことで進めていきたいなと思っています。

- 5番（高柳孝博君） 地域で再生するというと、残念ながら松崎町はかなりもう疲へいしているというふうに私は認識しているんですけど、町の中の力だけで本当に再生ができるのかどうか、本当に誰が職をおこせるのか、あるいはどれだけのお金をつぎ込めばできるのか、それはやっぱり真剣に考えなければいけないと思うんですね。

一つは、今までそういうことも実はやってきていないわけではなくて、やっているはずなんですよね。やっているはずだけど、できていないということは、いま町の中で一人ひとりと言いながら、なかなか一人ひとりが町の再生に向けて動くというのは、かなり難しい。そういう意味では、外部の力を入れることも考えなければいけない。あるいは今度の総合戦略を作るにあたりまして、プロジェクトを組んで、今までと違った発想、改革的な発想をしないと、ただ改善をする、今までのやつの上乗せだけではもう追いつかないんじゃないか。そのあたりは外の力もやっぱり入れる必要があるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

- 町長（齋藤文彦君） その総合戦略の中で、産官学金といろいろな人が入ってくるわけですけども、やっぱり総合プロデューサーみたいな人がいないとなかなかうまく作れないところがあると思いますので、そのようなことをぜひ加味してやっていきたいと思っていますのでございます。

○5番（高柳孝博君） 後ほど地域マーケティングの中で申し上げようと思ったんですが、いわゆるファシリテーターというのは取り仕切る人ですね。取り仕切る人がいないと難しいのではないかと思います。

今いろんな委員会が動いていますね。当然町を運営するために委員会が動いているんですけども、その委員会が充て職みたいなこと動いているとなかなかできないんじゃないか。だから、そうではなくて、まちおこし・・・、戦略的にうつところ、地域の資源の配分をどうとるか、そういったことを真剣に考えていかないと、今ある町の中の・・・、去年やっただから、今年はこれをやりましょうとか、そういう継続の中では創生はできないと思うわけです。そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 棚田をはじめ、松崎町には本当にいろいろな有能な人が入ってきているわけですが、本当にないもの探しではなくて、あるもの使いというような感じできているわけですから、もうちょっとこの点を注視していかなければいかんと思っているところなんです。

○5番（高柳孝博君） まさに町の資源と・・・、ずっと私は町の資源の美しい村連合も町の資源の保護と活用だということをずっと申し上げてきたわけですが、町には魅力があると思うんですね。いろんな魅力がある。先ほども・・・、最近でも松崎の魅力という冊子ができましたよね。ただし、魅力を見せたところで、それが伝わらなければいけない。魅力があってもなぜ来ないか考えなければいけない。魅力をももちろん磨くということは必要だと思うんですけど、来てもらうためには、その魅力をいかに知っていただくか、いろんなキャンペーンであるとか、首長のトップセールスとかいろいろやっているわけですが、今までやってただけで、まずそれでよかったかという、必ずしもそうではないように思います。そこにさきほどのPDCAを回すところが必要だと思いますね。よかったかどうかという評価をしてみて、これではまだだめだと、足りないということであれば、さらに策を打つなら、例えば、定量的に数字的にも倍にしようとか、例えば2パーセント上げようとかということではもう追いつかないんだと思います。だから、倍にするにはどうしたらいいか、それくらいの目標を持って本当に高い頂上を目指さないと変わらないんじゃないかと思いますが、そのあたりはいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ高柳議員のいうのは数字が出て非常に難しいわけですが、やっぱり檀上で答えたわけですが、やっぱり松崎町の一番の財産といたら、役場の職員だと思います。その役場の職員一人ひとりが一騎当千の精神になって松崎を活性化

するために活躍しなければいかんと私は思っていますので、今「日本で最も美しい村」連合に入って、ビルドアップ作戦とか、いろいろな課と話し合いをしているわけですがけれども、今度本当に「日本で最も美しい村」連合に、ビジョンづくりに行ってもらいますけれども、11グループに分けて。それで、やっぱりいろいろとんがった町、村があるわけですから、松崎を活性化するために、このようなことをやっているということを肌身に感じてきてもらいたいと・・・自分たちが頭でガンガン言っても、やっぱり百聞は一見にしかずで、見せないことにはわからないと思いますので、いろいろそういうことをやれば、役場の職員も元気になると・・・ぜひ磨いて一騎当千の職員になるようにしていかなければと思っていますところ

- 5番（高柳孝博君）先ほどから産官学金融という話が出ているわけですが、行政が確かに・・・町で一番力があるのは行政じゃないかと思っているわけですがけれど、けれど、行政がやるには限度があるんじゃないでしょうか。やっぱり行政の方・・・なぜ限度があるか、行政の方は単年度で動くわけですよ。だから、単年度で動いたときに、これじゃまずいなというときに、スピーディに動くことはなかなか難しいと思うわけですがけれども、これからPDCAを回すというところですから、PDCAを回すというのは、プランを作って、行動計画を作って、実行して、そして、それを評価する。それが評価あるいは管理値をオーバーしちゃったら、緊急に改善をうつとか、そういうことをやるわけですがけれども、なかなか行政はそこは難しいんじゃないかと思うんですよ。

予算の中でこれをやりましょうということで、予算の執行率90何パーセントは当然これはやるわけですがけれど、この策じゃなくて、次をやろうというときはなかなか難しい、動きが取れないということがありますので、ぜひそこら辺も実行する部隊もある程度外からの力を借りなければいけないんじゃないかと考えるわけです。役場の職員の方はいま遊んでいるわけじゃないから、新たにこれをやろうということになると、本当にその分の数をどうするんだという話は当然おきますので、そのあたりをしっかりと・・・町でこういう人が欲しいよというくらいの集め方、地域おこしにしても、それくらいのことをやらないとなかなか進んでいかないんじゃないか。

計画は作って・・・本当に大変ですよ。計画を作ってやるということは。ただし、指標ができないこともあります。達成できないこともありますけれど、プロセスの過程でやり方がいいかどうかというのは常にみていかなければならない。結果はもう・・・結果は出てしまった結果というのは直せませんので、そのプロセスを管理するところをぜひ作っていかなければ

ればならない。そのあたりはいかがでしょうか。

- 企画観光課長（山本 公君） 戦略を策定する中で、産官学金、その他があるわけですが、そういう方々が一緒になって戦略は作るわけで、当然作れば終わりという話ではなくて、作っていただいた人も当然関わっていただくということが前提であるかと思います。

ですから、先ほど町長が言ったように、自らのことであるということを考えていただくというのは、そういうことでありまして、ですから、当然役場が作って役場の方でやってくださいという話ではないわけですので、当然関わってやっていただきますし、外からも大学なんかの関係の協力を得たり、そういう形では取り組んでまいる所存であります。

- 5番（高柳孝博君） 時間もだんだん進んでいきますから、次にいきたいと思いますけれど、一つは、先ほど成功事例と失敗事例という・・・、研修にも行かれるようですけど、成功事例は出てくるというのは出てきやすいわけですが、実は、失敗事例というのはなかなか出てきてなくて、道の駅一つとっても、道の駅がいいぞという全国で道の駅ができたわけですね。ところが、道の駅で失敗しているところがあるんですよ、いくつか。やった素晴らしいよという成功事例は、成功したところは出てきます。だけど、失敗したところは、何で失敗したかというのはなかなか出てこないわけですね。本来そういう失敗したということがこれから戦略を作っていく上では大事ではないか。成功したところを見てくるものいいですけど、そのまま必ずしも松崎に当てはまるとは限らない。そういう意味では、「こういうことをしたら失敗するよ」「これはまずいよ」というようなことをしっかりとらえていかなければいけないと思います。そのあたりの戦略の作り方、成功事例じゃなくて、失敗事例をどう収集していくか、これは全国へ、これは走るわけですね。地方創生・・・、全国で走りますので、ある意味競争です。その競争に打ち勝つことをやるにはどうしたらいいか。

松崎としての特色のあるもの、地域として特色のある勝てるものを出さなきゃいけない。そのあたりはまさに失敗もなかなかできない。競争しているなかで失敗していたら負けちゃうわけですから、その情報収集というものはやっぱりやらなければいけない。そのあたりの考え方はいかがでしょうか。

- 企画観光課長（山本 公君） 議員がおっしゃられるように、なかなか成功事例というのは本になったりとか、出るわけですが、失敗事例みたいなものが出ているというのはあまり聞いたことがないわけですし、なかなか収集が難しいというようなことがあると思います。

今回視察をさせていただきますけれども、その中でやはりどういう課題があって、これを

どういふふうに解決していったかというようなことも当然聞いてきますので、その中でうちの町とすれば、どういふふうなことでできるのかとか、それぞれの地域によっても条件等が違いますので、見たものが全て町にあたるかというのはあるわけですが、それでも、取り組み事例は見せてもらいますし、失敗事例だということでも聞ければいいんですけれども、課題をこういふことで解決したよというようなことは当然聴取するということです。

- 5番（高柳孝博君） 先般福島の方が来て、福島の復興のお話をされたわけですね。あそこもそんなに大きな町ではない。人口8000人くらいでしたかね、大きな町ではなかったんですけど、それなりに地域の方を巻き込んでやっている。そこで、先ほど一人ひとりと言っていましたけど、地域の方をいかに巻き込めるか、それを来た方にお聞きしたわけですが、それは非常にやはり苦労したような話だったわけです。

ですから、そこら辺の話が本当に役立っていくんじゃないかと思います。成功した事例をまねしようとしてもなかなかたぶん難しいところがあると思いますので、研修に行くのであれば、町としてこれをやりたいんだから、これをやるには問題は何かという課題をみえるような格好で・・・。さっきいくつかのグループに分けて行くよということですので、そのテーマについて何が課題であって、それをどう克服していったかということ、やはりテーマがある程度みながら進めていく必要があるんじゃないか。そのあたりの考えはいかがでしょうか。

- 企画観光課長（山本 公君） 当然研修に、視察にまいりますけれども、当然事前に町としての課題を挙げて、それを解決している取り組みをしている地域というようなことで選択して行くわけですので、何も・・・、行ってからという話ではなく、また帰って来てからも全職員で共有できるような形でいきたいと考えております。

- 5番（高柳孝博君） 研修も行かれる、総合戦略も作られる、ビジョンも作られるということですので、それが11月、12月と言っていますけれど、11月、12月に向けての工程というのがあると思うんですね。行動計画というか、プランがあって、11月に向けてどういふふうにやっていくのか、誰がやっていくのかというのがあると思うんですね。そこでもやはりPDCAが回っていく、そこをみていかないと。どういふふうに・・・、今後計画はどのようなになっているのでしょうか。11月に作るまでの計画というのとはどのようなものなのでしょうか。

- 企画観光課長（山本 公君） 今回補正予算で上げてありますけれども、人口ビジョンを策定するのがまず前提ということですが、それと並行した中で、庁内会議ですとか、あるいは総合計画委員会なんかも活用しながら、秋を目指していきたいと考えておりますけれど

ども、事細かなものはまだできているわけじゃないですけども、そのようなスケジュールの中で対応してまいりたいと思います。

ただ、全国各地でビジョンを作らなければならないということがありまして、なかなかデータをとる部分がかかなり大変になってくる可能性がありますので、できるだけ早めにそれは企画していきたいと思います。

○5番（高柳孝博君） 総合戦略も全然国とかけ離れてできるわけではないですよ。国も事業そのものも出していますし、お金もここに付けるとお金のところまではっきりみえてきていますので、そうすると松崎としてこの5年間どうするかというのは、ある程度・・・、国も5年間の計画を出していますよね、想定を出しています。

だから、松崎としてもその5年間それから外れているわけではないので、それを松崎にどう落とすか、松崎は、先ほど3000万円と言いましたけれど、7000億円とかいうお金をトータルでみているわけですので、その中の3000万円が大きいか、小さいかという話はあるんですけど、ここが本当に正念場だと思います。ここでしっかりと金もやっぱり使わなければいけないし、人も使わないと本当の創生はできないんじゃないか。

総合計画をやってきていますけれども、総合計画というのは本当に何と言うんですかね。全部の部分に渡っているわけですよ。重点施策というのはもちろんありますけど、総合計画の中の重点施策というところに、残念ながらこの指数まで上げるとか、途中のプロセス（過程）ですね。過程の目標をどうするかというところが出てこないわけです。結果は7000人と出ているんですけども、この政策でどれくらい上げるかというのがみえてこないし、本来は7000人にたどり着けるためには、現在7300だったら、300はどう減っていく、その減っていく・・・、その減っていくのはなぜかというところで政策を打たないと7000人は止まらないわけですよ。だから、そのところのなぜそうなっているかという分析からまず始まっていくと思うんですけど、時間がないので次の地域マーケティングの・・・、まさに地域マーケティングはそれをやる場所なので、まず地域マーケティングの考え方というのは、もう一度話してみたいと思いますけれど。一つは、町のターゲット、町に交流で来てもらう人はどういう人か、定住で住む人はどういう人か、ただ住めばいいんじゃないかと、町として、こういう人が住んでもらうといいなというのがあると思う。いいなということは、それだけの課題になるわけですので、もっと増やすところになるわけですので、そういったことをしっかりやらなきゃいけない。

それから、町のマーケット、先ほどの先導していく方ですね。そういう方が必要ではな

いかと思います。それから、そのなかで、先ほど町としていろんな事業があるんだけど、どれをやっていったらいいか、そういったことを決めなければいけない。その監査をした中で、町はここを目指すんだというのが出てきましたら、そこと現在とのギャップというのは課題ですので、それをどう埋めるか、それを指標にして進めなければいけないと思うわけです。そこにビジョンとゴールというのがしっかり出てくると・・・。そのあとに、当然ビジョンとゴールが決まりましたら、そこへたどり着くにはどうしたらいいか、それはもう戦略的でなければいけないわけです。単純に予算を付けたからやりましょうではなくて、そこを重点的にやる。お金を・・・、3000万円で何ができるか、少し疑問に思うわけですけど、これをやらないとだめだということくらい力を入れないと、本当にできていかないんじゃないかと思います。

これから計画を作るといことなんですが、先ほどのアドバイザー的な方が必要じゃないかというような話をしていましたので、今後産官学金融がどう取り組んでくるか、産官学金融といいながら、実は全く新しいことではないわけですよ。産官学でやろう、やろうといったのはもうずっと前からいっているわけで、それがなぜうまくいっていないのか、そこを見なければいけないと思うんですよ。だから、そのあたり産官学がどう取り組んでいこうとするか、そのあたりの考え方がもしあったらお願いします。

○企画観光課長（山本 公君） いろいろお話がありましたけれども、あるべき姿を明確にして、それとの違い、ギャップを考えてまちづくりにあてていくというようなことは当然必要なことだと思いますし、そのためにも・・・、これまでもやってきたと言われますけれども、あらゆる関係者を入れて、自らのこととして考えていただくようなものにしてまいりたいと思います。

ですから、そのときだけ集まって、作って終わりということではないわけですので、やはり自らのこととして考えていただく、それぞれがそれに向かって努力していただくということは必要だなと思っております。

○議長（稲葉昭宏君） 高柳君、申し上げます。時間を延長しますか。

○5番（高柳孝博君） あと1点ですので、まとめたいと思います。もう少し進めます。

○5番（高柳孝博君） 時間があれなんで、ぜひそのあたりを明確にして、定性的でここに行こうじゃなくて、定性的で頂上に行こうじゃなくて、何メートルの頂上に行こうというところまでぜひ定量的に作っていただきたいと思うわけです。

あと、もう一つは最後の定住化につながる空き家調査、調査後の活用方法なんですが、い

ろいろ調査されたということで、NTTであるとか、シェアハウスの絡みとか検討されているようですが、やはりこのところは結構大事だと思います。雇用を生むという意味で・・・、雇用を生むということはなかなか今の出生率からすると、すぐに働く人が町に残るとはなかなか思えなくて、外部から来ていただく、集客もそうですけれど定住の人も外から来ていただく、これは全国でそれを狙っているわけですね。そういった中で、来てもらうための器づくりをしなければいけないと思っているわけです。その器づくりの一つが住まいで、住むところをやっぱりしっかり作ってあげないと来ないんじゃないか。それから当然仕事があれば来ない。先ほど仕事を作ることにに対しては創生戦略の中に当然入ってくる。4本の柱の中に、一番最初に入っているわけですので、当然それは入ってくるとふんでいるわけですが、一方で仕事ができても住むところがないということは、非常にまたこれも来ないということになる。前回もやりましたが、都会の3割の方は田舎に住んでもいいと言っているわけですので、今その3割の方を各地方が当然自分のところに来てくれという・・・、言ってみればもう競争という格好になるんじゃないかと思うわけです。そこで勝ち抜くためには、やはり松崎にはこういう資源があって、生活するには住みよいところ、来てよし、住んでよしのこういうところだということをしかりと作って、来る人に対してのサポート体制もしかり作ってやらなければいけないと思います。

前回はそのために空き家の修理のための・・・、先ほど町長の方から修理するため、修繕するための支援とかなんかも補助金みたいなものを考えているということですので、ぜひそれを実現していただいて、なおかつ住んだときの家賃等の考え方も少し考えていただいて、器を作って、仕事と住むところができれば、これは一つの強みだと思いますので、そのあたりをしかりやって・・・、そのあたりの考えはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 来てもらうためにはやっぱり借り方と貸す方の関係がうまくないといけませんので、両方が経済的に支援するような形ができればいいなと思っています。

ただ、いろいろ来る人も・・・、非常に難しいもので、松崎町に合った人というのがあればいいわけですが、やっぱり地区の皆さんといろいろトラブルがあったりしていろんな人がいますので、非常に難しいところがあるわけですが、やっぱりそれを乗り越えてやっぱり来てもらわなければいけませんので、松崎の力になるような人が来れるような形にしていければなと思っています。

○5番（高柳孝博君） 最後にまとめたいと思いますが、最後に一言申し上げたいのは、教育・・・、やっぱりまちおこしは教育じゃないかと思うわけです。教育は長くかかる話で、そ

れこそ10年単位とかなんかでやらなければいけないかもしれませんが、米百俵の考え方があるわけですね。学校だよりのなかにも米百俵の考え方が出ていました。これは新潟県の長岡藩が戊辰戦争で焼け野原になったときに、小林虎三郎という人がまさに教育をしなければならないということ始めて米百俵が支藩から贈られたんですけど、その米をみんなに配るのではなくて学校を建てた。そしたら、そこから将来世の中に活躍する人がどんどん出てきた。そしてまちが栄えてきた。だからまちを栄えるためには、どうしても教育というのは避けられない。そのあたり、教育長の思入れみたいなものをちょっとお願いしまして、終わりたいと思います。

○教育長（山本正子君） 教育の地方創生というのは、社会総がかり地域ぐるみで子どもをよりよく育てる環境を作ることだと理解しています。学校にも、地域の中には子どもたちのことを大変思ってください人たちが大勢いるので、そういう教育力を学校の中に取り込んで実践を積み重ねて欲しいとお願いしています。その思いが形骸化しないように力を尽くしていきたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で高柳孝博君の一般質問は終わります。

午後1時まで休憩いたします。

（午前11時45分）
